

新型コロナウイルス対策費を捻出しようと、地方議会で議員報酬を削減する動きが相次ぐ中、神戸市議会（定数69）の9月議会で、議員報酬を1年間2割カットする改正条例案が否決された。6月議会から継続審議となっていたが、過半数の賛同が得られなかった。

改正条例案は、維新や共創・国民民主ら計14人が「コロナ禍で収入減にあえぐ市民に寄り添う」などとして提案。自民や公明などが「削減で生じる財源の使い道まで検討すべきで、2割の根拠も不明」と慎重姿勢を示

議員報酬削減案 否決

神戸市議会「2割の根拠不明」

し、委員会で閉会中審査が行われていた。

提案側は使い道を「コロナ対策に充ててもらおう」とし、2割カットの根拠を「歳費を削減した国会議員に準じた」と説明したが、反対側は「具体性や説得力がない」として、議会費なども含めた改正条例案の提出を検討するという。

一方、県議会は6月、議員のボーナスや政務活動費をカットして約1億円を生み出すことを全会一致で決定。コロナ対応にあたる県立病院への全自動消毒ロボットの配備につながった。